



～東日本大震災を忘れない～



ガス部主催による社内研修会の真っ最中で、ほぼ全員の携帯アラームが鳴り驚くばかりでした。

通常に仕事をしていました。通信関係がダメで家族の状況が分からず不安でいっぱいでした。

酒スーパー船引店の倉庫内作業中で、店内で落下する商品を呆然と見つめるだけでした。

酒スーパー東店勤務中で、お客様とアルバイトを外へ誘導し、おさまるまで、雪が舞う駐車場で立ちすくんでいました。目の前の家が崩れ、道路がボコボコになる瞬間を見て、まるで映画のようで、少しの間、現実を受け入れられなかったのを忘れません。

仕事中（1F）でした。良紀会長の後の棚がたおれ、危ないから外へ出たが事務所外コンクリートが波うっていてそのうち地割れが起き皆で手を繋いでいた。

息子の中学卒業の為、休みでした。式終了後、矢吹町の高校へ娘を迎えに行く途中に地震にありました。矢吹へ向かう橋が落下していたり、道路がボコボコで、たどり着く事も帰宅する事も大変でした。家に帰ると藤沼湖が決壊していて、泥だらけになっていました。

卒業式の為の休みで、いちいで買い物している時、地震になり携帯がなってから、外に出て近くの東店に行き様子を見て、すぐ自宅に向かいました。自宅もすごかった。

小学校の卒業式の予行練習をし、各クラスに戻り、帰りの会を行っている時に揺れました。全員で机の下に潜りました。揺れに合わせて四方八方に机ごと体もっていかれたり、棚から物が落ちたりと、教室の中がグチャグチャになっていました。校庭には地割れが出来ていました。

体育館（小学校）で卒業式の練習をしていました。中央に集まり、しばらくして校庭で全校生集合して待機してました。

次の日が大学の卒業式だったので、大学がある他県へ行くために、母の運転する車で駅へ向かっている途中で地震にありました。正直、地震中の記憶があまりありません。

当時は東京の会社で仕事でした。最初の揺れが収まった所で、近くの公園に避難しましたが、人混みですごかったのと、余震でビルが揺れ倒れてくるのではないかと恐怖がありました。

お客様宅で同僚と作業中。隣の家の庭に避難。目の前の家が今にも倒れそうになり、死を覚悟した。長い地震が収まると大雪になった。



～東日本大震災を忘れない～



お客様との商談帰り会社近くリオンドール付近道路が歪んだ。会社に戻ったら駐車場に全員が避難していた。急いで直売油槽所に行ったが地下タンクが浮き上がってローリー、ライトバンが傾いていた。35KLA 重油タンクが基礎から外れて余震がくるたびに揺れていた。午後 18 時頃須賀川消防本部へ被害状況報告、油漏れ異状なし翌日より岩本次長と地下タンク基礎応急処置を行う。毎日地下タンクターム処分を行う。

当時は休みで須賀川リオンドールの駐車場付近にいました。自宅に戻り家族の安全を確認し、酒スーパー石川店へ向かいました。他店舗より被害が少なくある程度片付いた状態でした。原発事故がなければもっと営業出来たと思います。

当時は息子の中学校の卒業式だったので有休。サイゼリアで昼食後、自宅にいるとき地震が起こった。テーブルの下に入り揺れがおさまるのを待った。当時勤めていた工場の上司および工場長に無事を伝え、指示があるまで自宅待機となった。

当時は埼玉県草加市に勤めており、事務所の机で通常業務をしておりました。地震の発生と同時に外へ飛び出し（1F）電柱の揺れを見て只事ではないと思いました。その時は東北地方での発生とは夢にも思わず TV で初めて知り衝撃を受けたのを覚えています。電車も停まり、車で自宅まで送ってもらいました。

自宅が被災し避難。その後長らく避難生活を余儀なくされます。当時高校 2 年生への進級時期。進学を諦め、就職を選択しました。当時の様子や避難の惨状はとても容易に思い出せるものではありません。10 年経過した今でも生きている実感が湧きません。

本社 2F 会議室でガス部研修会

スキー場で仕事です。

ゴルフ場でグリーン刈り

JA 2 月末で退職して自宅にいた。

友人の家で遊んでいた。

結婚式場で料理を作っていた。

小学校教室にて下校準備

小学校で下校する前でした。

営業先へ納品に向かう最中。



～東日本大震災を忘れない～



当時はガス部所属で当日はガス部の研修会でしたが、白河のアパートの入居対応し、研修会へ戻る途中でした。矢吹町の農免道路を走行中、ラジオで緊急地震速報が流れ同時に揺れを感じました。慌ててハザードを出し、停止しました。道路がうねりだし、前方のトラックが左右に大きく揺れ、自分の車両も大きく揺れ、危険を感じました。揺れが収まり、農免道路はところどころ隆起や寸断してる中、本社へ戻り、その夜はガス基地にて一晩待機しておりました。

空港の見える空港道路を走っていて突然のラジオの警報で前の車がハザードランプを点けて停まったので、自分も様子を見てました。直後に自宅の様子を確認し、会社に行き当日は夜の11時近くまで、お客様の対応に終われ、翌日から落ち着くまでの20日間程度、毎日警察とガソリンの配布等の対応に追われる日々でした。

毎週金曜日は、酒スーパー須賀川店勤務となっており、震災当日は、酒スーパーへ出勤しておりました。大地震が発生し、商品が棚から落下するのを防ごうと始めは、棚の商品を手で押さえていましたが、今まで経験したことのない大きな揺れと長い揺れにより、頭の上からも一升瓶が降ってきて、これはヤバイと身の危険を感じ、スタッフ全員外へ非難する様、声掛けしました。パートさんも外へ逃げましたが、あまりにも大きい揺れで、立ってられない程で、パートさんと両手で支え合って中腰になりやっと立っていました。周りの住宅の屋根からは、瓦屋根がザーザーガラガラと次々に落下し、駐車していた車も車体の半分以上も前に動いてしまいました。少し揺れが収まり、店内へ行くと想像を絶する程の酒の山が店内通路に落下し、瓶も割れ、ものすごい酒の匂いがした事も覚えています。棚に入っていた商品は、ほぼ通路へ落下し一瞬にして酒の海状態でした。地震後一気に天気が急変し寒くなり雪が吹雪いてきたのも記憶していません。

3月11日、10年前を振り返ってみると様々なことを思い出します。その日は15時からのお客様との商談予定で少し早い20分前に到着して、商談資料の確認をしていました。確認していると急遽、携帯電話から、緊急地震速報の通知があり、その数十秒後に大きな揺れを感じ、すぐに車から外に出て、三階建てのお客様の会社から離れました。揺れが終わるまで、地面に膝をつけて身を守りましたが、道路が波打っていてアスファルトの大波にのみこまれてしまうのではないかと、初めて死を意識しました。

大学2年生でした。当時、埼玉県朝霞市在る大学の野球グラウンドで、部活中でした。寮住みの私は、すぐに寮母からTVを見る、親に連絡しろと言われ、TVを見て、あ然とした記憶があります。すぐに家族へ連絡するもつながらず。安否が不明なままでした。すぐに福島へ帰ろうと試みても、交通機関が全く動いておらず、家族の安否は、大学内の公衆電話に4時間並んで、やっとつながりました。その後、大学側の対応等を通して、実家へ食料や水を送りました。当時の震災の現場のひどさを、私は目にしていません。2カ月後、大学を辞めて、ボランティアをして過ごしました。それでも当時の苦労は真の現場を見ていない事に、今も罪悪感があります。〇〇だけでも東京にいてよかったねと言ってくれる心の広さを（友人や家族）私は今も心の底から尊敬しています。



～東日本大震災を忘れない～



ガス部の研修会に参加。駐車場に避難、駐車場に亀裂が入り、立ってられない位の揺れで、仲間と手をつなぎ、しゃがんでおさまるのを待った。

ダンロップタイヤ東北、仙台本店 2F 事務所で業務をしていた。揺れが収まるまで机の下に潜っていたが、生きた心地がしなかった。収まってから外に出て、皆で状況確認し、対応を協議。

須賀川市役所で被災し、その後直ちに市体育館に設置された「災害対策本部」において、災害対応、災害復旧に要する燃料の確保を危惧された橋本良紀社長（当時）から逸早く燃料供給のお声掛けを頂き、感謝の念に堪えません。

前の会社にて、金属加工中に地震が来ました。加工中だった為、逃げられず加工終了後急いでみんなのいる駐車場へ逃げました。そこでは、立ってられず、座っている人がほとんどでした。その中、ほとんどの方が自宅へ戻り、私は自宅近くにあったため、会社のテレビをつけました。テレビでは中継されていて、いわき市のアクアマリンふくしまが映っていました。アクアマリンに津波がきて、重いコンテナがプカプカと浮いていて、初めて見る光景に身体が硬直し、衝撃を受けました。外では、吹雪になり、多くの鳥が空を舞い、道路はひび割れ、マンホールは地面から突き出すなど、その光景は 10 年になる今でも忘れられません。

営業でお客様の会社を訪問中、社長と話をしていました。すぐに事務所を出ましたが、事務所の中はメチャクチャ、駐車場も地面が動き、恐怖を感じました。

ガス部研修会で本社会議室にて会議中。

本社会議室にてガス部研修会中。駐車場に退避し、おさまるを待つ。

ガス部研修会で、2F 会議室に地震が収まるのを待った。

前職場で事務所に居た時、地震がおき、倒れる机をよけながら外へ逃げて、すぐ上に通る新幹線が波打って揺れて、一帯に砂ホコリが舞っていた。

ガス部研修会のため本社会議室にて地震にあう。

足利市の友人のアパートにおり、そろそろ帰ろうとした矢先に地震が発生。帰宅にかなりの時間がかかった。

ガス部研修会で本社にて地震にあう。

インターSS勤務で当日は休みで午前中須賀川アリーナにてトレーニングジムに通い自宅に戻り酒を呑み、昼寝をしていたら地震が起きました。その日から 1 ヶ月以上ガソリンスタンドが目される日が続きました。



～東日本大震災を忘れない～



勤務中で、ボンネット事務所内で仕事をしていました。後ろはガラス張り、上は吊り天井で長く続いた揺れ。初めて恐怖を感じた地震でした。

出張で中国の浙江省にいました。現地のニュースで津波の映像を見て、まるで映画みたいだと思った事を覚えています。

須賀川ガスに内定をもらい、ハローワークに書類を提出に行く途中の車内で地震がきました。3日後の初出勤の日に、午前中研修の後、炊出しの手伝いをしました。

ガス部の研修会実施中、揺れている時は、ISO の書棚をもう一人とおさえていた。「逃げた方がよくない？」と言う会話をしたのを覚えている。

ガス部研修会参加中、突然の地震によりすぐにガスセンター向かったことを覚えています。充填所点検です。

前職の航空自衛隊在籍当時、休日で仙台駅東口に乗用車で移動していました。津波被害ですぐに松島基地へ戻れず、当時お世話になった先輩の家で滞在して事を覚えています。

前職勤務中、渋谷で被災のち、即応予備自衛官として非常招集されて、宮城県へ派遣されました。

高校1年の時で、受験生の合格発表で休日だった為、自宅に在宅していました。

ガス部研修会で本社の会議室に、…その後、1度アパートに戻って現状確認とアパートのガス止めを行い、その後会社に戻って、対応しました。

ガス部の研修会中でした。その後すぐに公立病院の点検に向かいましたが、並木町から南町に入ったら倒壊した建物が、信じられない光景でした。

SS 部所属で矢吹中央セルフ SS に勤務していました。店舗でのいろいろな対応を行っていました。

山口次長と岩瀬村の梅本宅で灯油タンク取付工事を行い、その後は本社に戻り、対応しました。

前会社にて、地震の対応・情報の収集・元売（エネオス・コスモ・商社）との配送手配などの対応をしておりました。



～東日本大震災を忘れない～



3 男の卒業式が終わり、ケーキを受取に行った時

会社の事務所で仕事をしていました。

エヌシーアイ電子に訪問時

次女の卒業式で外食からもどった時でした。

他ガソリンスタンドで勤務中、貸出しタオルの洗濯中。

イオン駐車場にて地震アラームが鳴り支給 SS 内に入りお客様 1 名が給油中でしたのでお客様と高宮さん 3 名で安全な場所でしゃがみ待機、地震が終わり SS 内を閉店し設備の確認（洗浄機脱輪、出入り口の路盤盛り上がり）全店に閉店指示、被害状況の確認を行いながら本社に移動しました。

当時、店内で揺れる酒の棚を必死で支えていたが、下敷きになっては大変だと思い外に出たが身体の震えが止まらなかった事をいまだに覚えています。10 年目の今も起こっているので地震対策はしっかり行っていきます。

10 年ひと昔というが、あの時 118BP で昼食を取っていた時、ドンと突き上げる地震が起こり酒の棚にまともに歩けなかったが無事に外に出られました。その時の事は忘れない。

当時、前勤務先でオイル作業中に地震にあい強い揺れの中、お客様を外へ誘導し自分も避難し無事でした。

銀行に両替に行っていて東邦銀行のカウンターの下に隠れました。天井の蛍光灯が揺れパソコンの電源が切れ暫く外にいました。雪がチラついていたのが印象的でした。

インターSS で給油中地震がきてお客様を避難させた後酒棚を抑えたが尋常ではない揺れに驚き外にでて茫然としていたのを憶えています。

118BP 内で中の仕事をしていました。突然の揺れに驚きすぐ 2 度目が来たときはおそろしくなりませんでした。あの時の恐ろしさは言いようがなく家族の安否が心配でした。スタンド内は混乱して不安と戸惑いあり只事ではありませんでした。

LNG 受入作業終了時揺れに襲われ安全な場所で揺れが収まるまで待機その後被害状況を確認していました。



～東日本大震災を忘れない～



あの日は 118BP で勤務中でした。なかなか収まらない揺れに恐怖心が大きくなっていきました。スタンドに入ってきたお客様が慌てて車から飛び出しましたが、皆立っていることもできず地面に伏せていたことを覚えています。今後いつまたあのような災害が起こっても落ち着いて対処できるようにいろいろ準備していきたいと思います。

あの日は学校が休みで友人宅にていつものように過ごしていました。すると携帯から地震速報が鳴り今までにない強い揺れが起こりました。今までの日常からは一変し当たり前だったことが出来なくなり日常のありがたさがよく分かりました。学生だったあの頃から 10 年。今後も震災のことは忘れずにいきます。

当時、通常通りの一日を過ごす中、突然として大災害に見舞われパニックになりつつも現状を受け止め災害ゴミ片付けというボランティアに積極的に参加して一刻も早く事態が収束するように努めていました。

その日は突然起きた。当時の自分はいつも通りに過ごしていました。突然として大地震が起きて家の食器や棚が倒れて家の中がぐちゃぐちゃになり地震が収まった後は家族と家の災害ゴミの片付けをしました。

当時ボンネット勤務でボンネット内事務の仕事をしていました。自宅が断水になりましたがボンネットは断水にならなかったのが助かった記憶があります。

災害当時は前職の SE の関係で神奈川県の新横浜の自社ビル 4F で仕事をしていました。震度はおよそ 5 でしたが上階にいたこともあり揺れを強く感じしばらくの間揺れている感覚になっていました。帰りは電車も停まっていたので 7 時間歩いて帰りました。

地震があった時、当時高校生で学校が休みだったこともあり自宅にいました。1 カ月前に兄を病気で亡くしたばかりだったので骨壺を抱えて祖父母と急いで外に出ました。

船引 BP で工作中でした。店の外にいましたがサインポールが物凄く揺れて怖かったです。女性のお客様が「きゃーきゃー」叫んでいました。

その日は休みで母親を病院へ母親の帰りを病院の駐車場で待っていました。その時にゴー音と強い揺れがきました。

118BP で工作中でした。店内で商品の補充をしている時にとても強い揺れがあり天井から物が落ちてきて恐怖を感じました。

船引 BP で勤務中でした。カウンターでお客様の対応をしている時に地震が起こり酒の棚をおさえていました。建物の揺れに恐怖を感じました。



～東日本大震災を忘れない～



前の職場の工場内で機械のメンテナンス作業をしていました。外へ出た途端外壁が崩れ落ち間一髪でした。今でもあの恐ろしさは忘れることはできません。

メガ田村勤務中でした。お昼休憩交代し同僚と談笑をしていた時に揺れだし地震だね～と言葉にする間もなく体験したことのない揺れ。書類棚が倒れないようにと抑えながらしがみついていた。それから数日、原発事故、ガソリン不足による混乱と食料品不足など現実とは思えない体験でした。

自宅にて震災に遭遇し自宅の中から全壊していく様子を見て茫然としました。家族の安否を確認してからスタンドの様子を確認し自宅の片付けをしました。

イオン鏡石SSにて勤務震災に遭遇しました。事務所にて監視業務を行っている中で直ちに安全な場所で待機しました。

自宅にて震災に遭いました。水道の復旧まで1週間かかりました。

棚倉勤務で車内で昼休憩中でした。酒の倉庫のシャッターが「ガタガタ」と音が鳴り店舗の様子を見に行くと3人のスタッフが久保田、ドンペリ、魔王の高額商品を死守していた。すばらしく意識の高い勇者でした。

当時失職中で家族や自宅の損害が皆無だったこともあり、岩手県一関市の母方実家の片付けにいきました。月に数度国道を通う日々、通るたびに姿を変える街並みに復興への思いを感じました。

棚倉勤務中に震災にあい、店内にいたお客様の誘導をし、商品が倒れ割れていく音が今でも耳に残っています。子供達、両親の顔を見た時の安堵感とともにTVで観た津波の強さが衝撃でした

工作中揺れだし、あまりの揺れに職場の窓から外に避難しました。一度帰宅命令が出て帰宅し会社に戻ってくる時が異常な渋滞でした。

当時、大型ダンプを運転中、山の山頂で地震が発生。ただ事ではない恐怖と不安で焦っていた。とにかく家族の安否を確認し携帯で状況を確認するも津波の映像に言葉を失ったと記憶しております。

高校2年生で自宅におり、揺れを感じ外に避難しました。その時は休校になったり食料や燃料が入手困難になったりと普通の生活に戻れるのか不安を感じていました。



～東日本大震災を忘れない～



棚倉店勤務中に被災。揺れ発生当初は棚を抑えに行き揺れが激しくなり、所長の指示で外へ退避。退避と同時に棚の酒が一斉に倒れてきた。あと一步、指示が遅かったら怪我をしていた。今でも所長の冷静な対応が鮮明に覚えている。

自宅で被災。揺れが強くなったため外へ避難（当時高校2年生）

友人宅で被災。揺れが強くなったため外へ避難。（当時中学1年）

自宅で被災。

自宅の物置で整理中被災。（当時、住友ゴム在職中）

白河東セルフ店にて勤務。お客様対応中に地震発生しました。今まで経験のない揺れに戸惑いながらお客様を安全な場所へ誘導したことを覚えています。今後も地震等の災害対策を頭に入れながら仕事していきます。

勤務しており、両替したお金を金庫に入れている時に地震が発生。外に避難し店舗内に積んであったビールが倒れ、自動ドアが開き外へ転がってきました。横揺れが酷く駐車していた車が前後に動いていたのを覚えています。今まで経験したことのない揺れにあの時怖さを感じました。

娘の卒業式の後みんなでプリクラを撮りに行きプリクラ機の中で地震に遭いました。あまりの揺れに立ってられず、下の子は気持ち悪いと怖いと大泣きしていました。急いで家に帰ったら水槽が割れ水浸しになっていました。停電で電気もつかず怖い夜を過ごしたことを覚えています。

地震当時は学生で、学校から帰宅し自宅で昼食を作っている最中、携帯のアラームが鳴り間もなく地震がきました。あまりにも突然の出来事だったので何も出来なかったです。

前職にて栃木県那須塩原市の店舗にて商談中、震災が発生し、お客様の誘導を行いました。その後、担当店舗を巡回し買い占めで混雑する店舗のフォローを実施。緊急時のお客様の行動変化。商品販売動向を学び日頃の防災訓練や緊急需要への準備の重要性を痛感しました。

当時私は、神奈川県相模原市に住んでいました。勤務していた店舗にて16時からの始業に備え早めの出勤し事務所にいたところ大きな揺れとともに停電。あの地震が発生しました。単身赴任だったため福島に残った家族のことがとても心配でした。あの日のことを忘れず、今できる備えは何か家族で話し合う時間をつくっていきたいです。



～東日本大震災を忘れない～



郡山市の店舗で開店準備中。震災の前日に3日間の予定で郡山店で勤務。地震が発生し全員で外に避難し地震が収まり店舗に戻ると商品の8割が割れている状況で店舗をきれいにするのに2日間かかりました。停電、断水もあり当時は大変ではありましたが、全従業員で力を合わせ復旧したこと、緊急に備え準備しておくことなどを学びました。

SS勤務中で監視業務している中地震が起きました。少し様子を見ていましたが揺れが酷くなったので店内にいたお客様、スタッフに外へ出るように指示しました。そのあとは、余震への対応、落下や破損した商品の片付け等を行いながら営業を続けていました。まだ震災時の余震と思われる地震が続いていますので職場、自宅共に備えをしっかりと行っていきます。

丁度勤務中で、1番精算機のつり銭補充をしていました。少し揺れ始めた直後に大きな揺れを感じました。近隣企業の従業員の方々も慌てて外に逃げ出していたのを覚えています。スタッフ、店舗共に幸いにも大きな被害はありませんでした。地震直後は焦りましたが出勤スタッフと協力し合い、お客様の誘導、店舗チェック、酒類の清掃を素早く行えました。震災の経験を忘れず、常に地震対策を行い続けたいと思います。

家で寝ていた時に地震が起き、すぐに起きて机の下に入り揺れが収まるのを待ち、外に避難する事出来ました。震災から十年経ちましたがその時の教訓を忘れず災害が起きても対応できるように心がけていきます。

卒業式の後片付けを行っていた時に地震が発生しました。初めての大きな地震で私は混乱しましたが先生の指示のもと早急に避難することが出来ました。あの時の私は混乱する事しか出来ませんでした。的確な指示をしてくださった先生方のように緊急対応できるようにしていきます。

自分の部屋でお昼寝していた。

白河イオンでショッピング中。

小学6年生で授業を受けていました。

祖父が危篤で全員（家族）一緒に家にいました。

小学4年生で帰りの会中。

社会人1年目で働いていました。



～東日本大震災を忘れない～



当時はうすい百貨店の3階で婦人服販売をしていました。店内の什器や鏡が倒れ、揺れが収まるまで壁につかまりながら立っていました。その後、お客様を避難誘導してから自分も外へ出ることができました。月に1度の避難訓練が役にたったように思います。その後は、ガソリン不足、食料不足に2～3週間苦しみました。日頃からの備えが必要だと知らされました。

当時、1歳の次男を連れて長男を迎えに幼稚園へ行き、自宅の駐車場に着いた直後に地震が起こりました。恐怖でしかたなかったですが、1歳と4歳の子供を抱きかかえて安全な所まで走りました。周りの家の壁が崩れ落ちたり、地面から水がしみ出てきたりと、初めて見る光景に信じられない気持ちが強かったです。家の中は、割れた食器類が散乱し、とても入れる状況ではなかったので、実家へ避難しました。家族全員が無事だったことが何よりでした。

仕事が休みで自宅に居たら強い揺れを感じ、外に避難しました。家族と連絡が取れず、不安な時間を過ごしました。

地震当日は公休で、当時幼稚園生だった子供らを迎えに行き、帰る途中、西川のベニマルで買い物をしているときに携帯の地震速報がなり、画面を確認していたら強い揺れが襲ってきました。私は娘2人を抱きかかえ、嫁が長男を連れてそれぞれに店外へ出ました。電柱は激しく揺れ、国道を挟んで向かいの自動車ディーラー(スバル)の窓ガラスがバリバリバリという音を立てて割れはじめ、一時ではありますが信号は停電し、雪が吹雪いてきたなか家族で固まりしゃがんで地震が収まるのを待っていました。当時は北団地に住んでいましたが子供たちが怖がっていたので自宅へは帰らず郡山の実家へ一時避難しました。実家の被害は大きく壁はひび割れ、食器類は棚から落ち割れ、電気は通っていたものの水道が断水し、兄と二人で給水に行ったこともありました。度重なる余震で家族全員が恐怖に襲われながらも、声をかけながらその日を過ごしたことを今でも鮮明に思い出します。ただ、家族全員が無事だったのが何よりの幸いでした。

当日は、前職で東京に居ました。東京の本社ビルがものすごく揺れフロアの全員がデスクの下に隠れていたのを思い出します。帰りの電車は無く、タクシーも拾えず歩いて自宅まで帰り着くとエレベーターが動いておらず、7Fまで階段で上りくたくたに疲れました。その後、郡山の実家と妹夫婦に電話が繋がりに、まずはほっと一息といった状況でした

休日の昼休み中。地震が長々とつづき、床に物が散乱・実家の屋根瓦が落ち、少し落ち着いてから子供の学校迎えを親に頼み店舗に直行した。途中道路が所々割れていた為、店に着くまで時間がかかった。

当時毎週金曜日は、会津若松の病院で手伝いをしていました。地震で外来が打ち切りになり、49号線で周囲の状況を確認しながら郡山へ帰るのに3時間以上もかかりました。途中信号が消えて、道路の亀裂も激しかったです。食料購入にコンビニに立ち寄ると食べ物・水も何もなくアルコール類だけが棚に残っていました。本当の非常時を感じました。



～東日本大震災を忘れない～



仕事がお休みだったので、買い物へ出掛けていました。駐車場に車を止めた瞬間に緊急地震速報の音となり、心臓が熱くなりました。次に気づいた時には、私は強い揺れに耐える為に車のハンドルにしがみついていた。当時勤務していた、酒スーパー須賀川東店のすぐ近くだったので、崩れた塀や瓦を横目で見ながら、ぼこぼこになった道路を走っていきました。到着すると棚は倒れ、瓶は割れ、想像を絶する光景が広がっていました。日本酒、ウイスキー、ワイン、すべてのお酒の混ざった嫌な臭いは今でも忘れられず覚えています。そこから始まった片付け作業は、繰り返してやってくる余震や緊急地震速報の音、ラジオから流れる原発のニュースによる恐怖をごまかすようにスタッフ同士が声を掛け合いながら作業をしました。灯油や水、カップ麺を沢山のお客様にお求めいただきましたが、商品の入荷のめども立たず、その声に応えることができませんでした。この3.11を経験した私は、地震への備えの大切さとして「自分の為の備え」の他に「人を支える為の備え」もなくてはならないと考えるようになり、防災とはその時を守るだけでなく、その後の生活をも見据えた意識が未来につながるのだと知ることができました。

当時学生だった私は、学校のある千葉から地元のいわきに帰省していました。3月10日に弟が車の運転免許をとったこともあり、弟の運転でいわきのお店をまわっていたところ地震にあいました。海に近かったこともあり、津波の情報はすぐ入ってきましたがあれほどの被害とは思ってもよらず、運転をかわりすぐに自宅へ向かったのを覚えています。あとから分かりましたが、私が地震にあった場所には津波はきていませんでした。しかし慣れたしんだ食堂や、ららミュウはのまれてしまい、恐怖を感じました。

震災当日は、矢吹店勤務（4号線に店舗があった頃）で信金鏡石支店から釣り銭両替に行ってきた、店舗事務所内にて金庫に両替してきた釣り銭を入れている最中に、地震が発生し急いで金庫に釣り銭を入れ、店内に戻り最初は従業員全員で商品棚を抑えていたのですが、あまりの揺れの強さに立っていらなくなり身の危険を感じたので、従業員全員で駐車場に避難しました。地震発生時店内にお客様はいませんでした。地震後は駐車場・店内・倉庫に至る所に地割れがあり建物は少し傾き、店内・倉庫共に歩く所が無くなるほど商品が散乱し、商品棚も倒れてしまうといった大変な状況になっていました。その後余震に気をつけながら全体の片付けを数日かけて行いました。店移転が決まったので現在の八幡町に数日後に店移転を実施しました。震災当日はいつも通っている道路が陥没していたり、トンネルが通れなくなっていたりしていた為アスファルト舗装されていない農道を通ったりして約1時間かけて自宅に帰りました。10年経った今でも地震発生時と地震直後の状況は恐怖でしかありません。

震災当時は、大学生の春休み時期で、弟と一緒に家にいた時に携帯から緊急地震速報のアラームとなり、大きく揺れたので、物が落ちてこない場所に避難して揺れに耐え、揺れが静まってから家に入ると物が散乱していたのと家の中が揺れている感覚があり、中は危険だと思い、親と連絡が取れるまでは、近くに買い出しをして、車の中に必要な物を入れて連絡を待っていた記憶があります。その後は、親が合流した後に、家の中の片付けをしました。



～東日本大震災を忘れない～



ふねひきパークで当時5才の娘と友人親子と一緒に買い物をしている時、聞きなれない音が携帯から鳴っているのをなんだろう？と思っているうちに強い揺れが来てオロオロと外に出た。子供が離れないように抱えながら尋常でない揺れにこの世の終わりかと思っていると、突然娘がすっくと立ちあがり「地震さん！もうやめてー！！」と勇ましく叫び、少し気持ちが和んだ。

その後小学校に上の娘を迎えに行くと会社から小学校に直行してきた主人と合流することができた。家の中は思ったほどの被害が無く、食器が少し欠けたぐらいだった。その日の午前中にはじめてピンク色のマカロンを作ったのだが、その一か月後またマカロンを作ったところ大きな地震があり、全然関係ないのだが怖くてしばらく作れなくなったという思い出がある。

3/11（金）14時46分の地震発生時は須賀川東店勤務で昼休憩中だった。激しい揺れの為、ただ事ではないと思い売り場に出て、お客様とスタッフを駐車場の落下物の心配ない箇所へ誘導した。地面が波打ち立っていられず座り込んで店舗や揺れる電柱を眺め、揺れがいつ収まるのか、恐怖しか無かったのを覚えている。

地震が収まり店内を確認し商品が足の踏み場が無いほど床に散乱し自動ドアを開けるのにも苦労し開けて入って、どうやって片付けるか悩んだ記憶はある。

震災当時は中学生で、卒業式の後友人宅に遊びに行っていました。そのため、友人宅で震災にあう事となりました。外に出て、揺れに耐えていたところ、友人宅の屋根の瓦が落ちてきたのを覚えています。自宅に帰宅後、家族で話し合いとなり、原発の40km圏内に自宅があったこともあって、埼玉の方にいた姉の所へ避難することとなりました。ひと月ほどに避難になりましたが、あの時は非常に不安な気持ちで一杯でした。避難から戻った後、幸いにも、欠けていたクラスメイトなどはいませんでした。より原発に近かった、他校の生徒を私たちの学校で受け入れていて、震災の影響を強く感じました。

郡山市の駅前アティにて友人達と遊んでいたところ被災。実感のないまま非常階段を下りて下の様子に啞然としました。何とか無事に帰る事が出来たので良かったですが、しばらくは身の安全を確保し続けなければならなかったのではとても大変だった事をよく覚えています。

須賀川店勤務で、お昼休みがそろそろ終わろうとしていたとき、携帯電話の地震アラームが鳴り、急激な揺れが始まった。「少しでも商品を抑えて落下を防ごうと店内に出たが、とても抑えるどころではなく、一升瓶、ワインの瓶がどンドン床に落ち、割れていき、床が酒の海になり、清酒の香が漂ってきた。酒に埋もれてしまうと思い店外に出た。

当時は石川店勤務中で余震からの本震の時間が長くお客様を避難誘導したことを覚えています。今まで体感したことのない地震だったので改めて予防対策の重要性を感じました。また、東京電力の原発の放射線のことで外出も危険との情報も錯綜してカップ麺、パンなどの保存食がスーパーの売り場から在庫が無くなったことも異常に感じました。